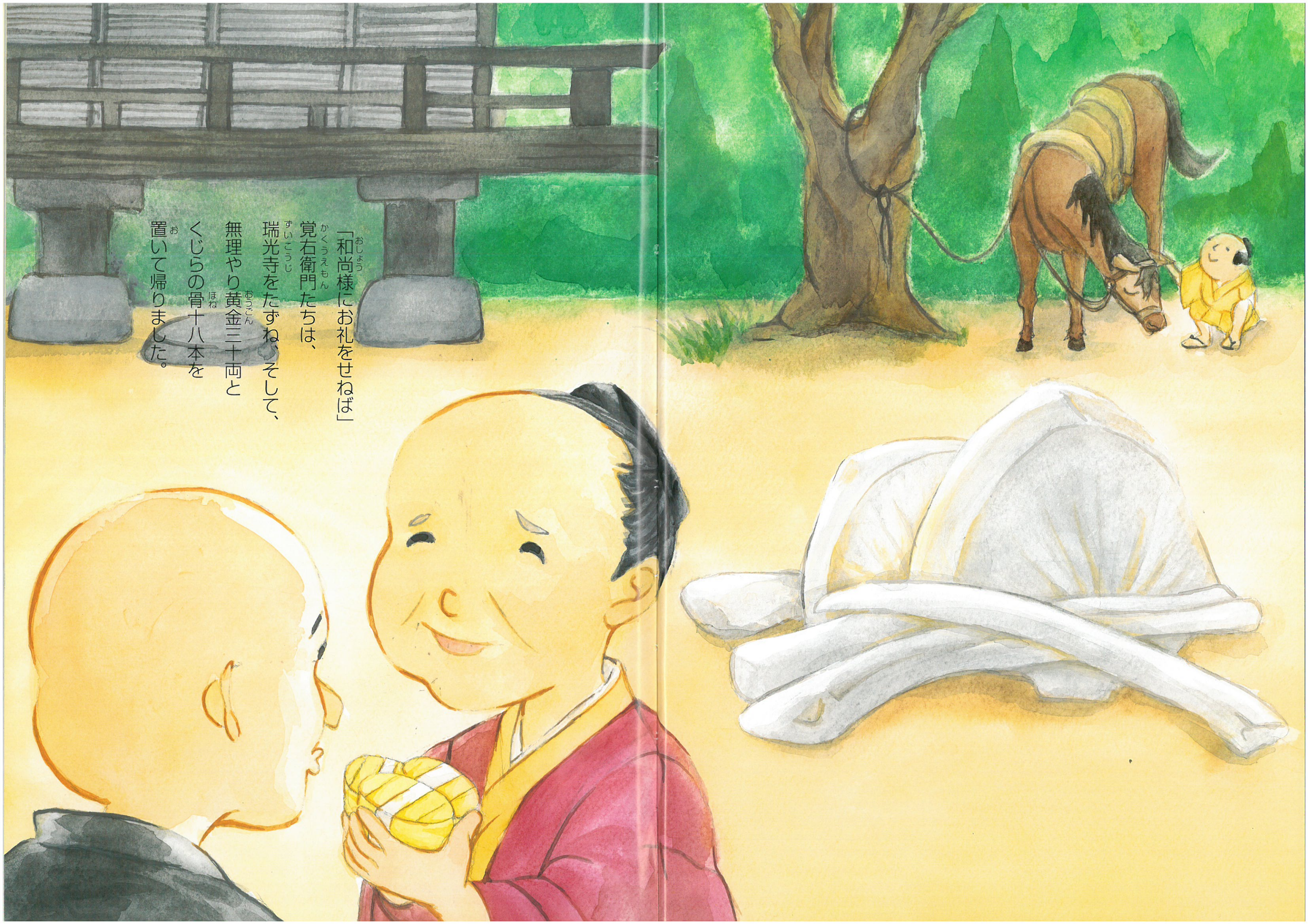

「和尚様にお礼をせねば」
覚右衛門たちは、
瑞光寺をたずね、そして、
無理やり黄金三十両と
くじらの骨十八本を
置いて帰りました。